

# 互一会 (51回卒) 傘寿と叙勲 6名に沸く

互一会は西村清一会長が昨年春に突如逝去され、一時は会の存続も危ぶまれたが、平成29年10月26日(木)、27日(金)に2年ぶりに、神奈川県奥湯河原において会を開催した。

昭和37年180余名で卒業した同窓生は現在3分の1の方が鬼籍に入り、連絡の取れない者もいて、開催の案内状を出せたのは108通であった。そのうち出席24通、欠席62通の返事をいただいた。

互一会会員の年齢層は米寿を迎えている者もいるが、今年で全員が傘寿以上を迎える。卒後30周年開催の節は110名を超える参加者がいたが、80歳以上ともなれば、自分自身や身内の病のために、出席できないという理由が目立っている。

開催した会場は奥湯河原温泉の老舗旅館の山翠楼で、温泉に入りくつろいでから総会を始める。開会に先立って、この2年間に亡くなられた8名の冥福を祈った。その後空席になっている会長の座について協議し参加者全員一致で藤井敏雄君を会長に推挙し、会の存続をも決定した。

その他として、昨年度と今年度の叙勲に6名が受賞の榮譽に浴したことが報告され、全員で祝福をした。平成28年度顕彰者は瑞宝中綬章に畑好昭君、瑞宝双光章に佐藤進君と大音篤孝君、平成29年度瑞宝中綬章に川崎孝一君と片桐正隆君、瑞宝双光章に服部英治君の諸氏である。

また、出席者の大野肅英君が一般読者向け本として、法政大学出版局からシリーズ「ものと人間の文化史177」に『菌』のタイトルで四六版250頁が出版されたことと、押尾克己君が趣味の収集についてテレビ出演したことが披露され、その後行われた宴会でも話題となった。

宴会は新会長の挨拶と乾杯に始まり、肩の凝らぬちまたの話題や学生時代の話の盛り上がりには、80歳を過ぎて、端から見るとは裏腹に、当事者は学生時代のマドンナは今でもマドンナとして、輝いて見えた。

欠席者から、足が悪いので、旅館は苦手で都心のシャレタホテルで開催との要望をも踏まえて、次回東京で開くことを決め、閉会となった。(大竹博明 記)



互一会 (51回卒) 平成29年10月26日 於 奥湯河原「山翠楼」